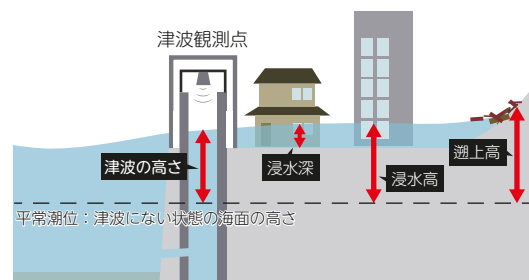


検潮所における津波の高さと
浸水深、浸水高、遡上高の関係
(気象庁ホームページより)



また、津波の特性を知ること
も重要です。「津波の高さ」は、津
波でない状態の潮位から、津波
によって海面が上昇した時の高さ
の差です。「予想される津波の高
さ」は、海岸線の値で、場所によ
っては予想される高さより高い津
波が押し寄せるため注意が必要
です。東日本大震災では、「予想
される津波の高さ」だけで判断
し、避難せずに津波の犠牲になっ
た事例もあります。「浸水深」「浸
水高」「遡上高」は津波が引いた
痕跡から推定される高さです。
「遡上高」は「津波の高さ」の2〜
4倍の高さまで到達するため「津
波の高さ」が5メートルであれ
ば、最大20メートルまで遡上し
ます。計測には限界があること、
相手が地球エネルギーであるこ
とを考慮して判断をしましょう。

甚大な被害と犠牲から
生まれた教訓を糧に

危機管理の原則は「情報」と
「想像」と「行動」です。想像する
ためには知識が必要です。日本
の防災は、一刻も早く警報を知
らせることに重点を置き、現在
では緊急地震速報や防災無線、
テレビ、エリアメールなど複数の
手段を同時に活用し発信してい
ます。しかし、知識が乏しく、発
信される「情報」が正確に捉えら
れない場合は、被害イメージの
「想像」が欠如し、誤った行動と
なる可能性があります。このよ
うに、防災では知識の有無が生
死につながります。

日頃から家族で津波発生時の
逃げ方や避難場所、真夜中に発
生した時の対応などを話し合う
ことも大切です。普段から子ど
もと一緒に近隣を散歩し「津波
が起きたらこのビルに避難しよ
う」「津波到達まで時間があるこ
きは、この場所に避難しよう」と
いった『防災散歩』を行い、子ども
たちも自ら判断し「自分の命は
自分で守る」という考え方を身に
付ける必要があります。

避難時に選択肢が複数あり、
確信がもてないときは、悪い方の
想定を選択する。「津波が来るか
もしれない」「こないかもしれない」

「避難行動から生存行動」
「人が死なない防災」へ

防災とは自然と戦うことでは
なく、死なないために逃げるこ
とです。大切なことは、津波警
報発表で全ての住民が避難する
ことであり、生きるために逃げ



▲メッセージが刻まれた津波記憶石

と迷ったときは「くるかもしれない
を選ぶ」と決めておくことも災害
から命を守る考え方です。自然
災害は地球活動で、地球誕生46
億年からすると、人間の一生は
一瞬です。「過去の経験で津波は
来なかったから次も来ないだろう」
という考えはもうやめましょう。
釜石市唐丹町に建立された津
波記憶石に釜石市の中学生「1
00回逃げて、100回来なくて
も、101回目も必ず逃げて！」
のメッセージが刻まれています。
これは大震災による甚大な被害
と犠牲から生まれた教訓です。

「避難行動から生存行動」の考
え方が大切です。また、大規模
災害発生時は行政や消防、警察
などが1人1人の状況に対応
し、避難させることは不可能で
す。自分自身で考え行動に移す
必要があります。最後はあなた
の判断です。

自然災害は突然、容赦なく
襲ってきます。自然と共存し、
傷ることなく、今一度「人が死
なない防災」を実現するため、正
しい知識と正しい情報で正しく
恐れることを心掛けるとともに、
次のことを胸に、来るべきときに
備えてください。

命を守ることが最優先です。家族で共有を。

警報が解除されるまで避難を続けてください。

携帯型ラジオは必須です。

防災に「なんくるないさ」はありません。



「人が死なない防災」の

INTERVIEW

実現に向けて――



車社会沖縄に

突きつけられた課題

まず、「沖縄地方は地理的かつ
歴史的に地震津波災害が発生す
る場所であること」「自然災害の
発生は止められないこと」の2点
を理解してください。世界で発
生するマグニチュード6以上の地
震の約20%は日本で発生してお
り、沖縄県も例外ではありません。

4月3日、沖縄地方に東日本
大震災以来、13年ぶりに津波警
報が発表され、各地では車避難
による大渋滞が発生し、車社会
沖縄の課題を突き付けられまし
た。警報解除後、元釜石市防災
課長の佐々木守氏から「東日本大
震災でも車避難による大渋滞が
発生し、多数の住民が津波の犠
牲となった。この課題は早急に解
決する必要がある」と連絡があり
ました。海沿いの保育施設では、
地域住民の協力を得て必死に園

児を避難させたと聞いています。

適切な行動のために、

防災知識の蓄えを

これまで幾度も被災地を訪れ、
震災対応の聞き取り調査を行っ
てきました。「自然災害をなめて
いた」「これまで来なかったから今
度も来ないと思った」と当時の行
動を反省する被災者が多数を占
めます。生死の境目は情報を受
け取る側の行動が大きく影響し
ます。では、緊急時に適切な行
動を取るために必要なことは何
か。「逃げる」という行為を当たり
前にすることです。加えて、津
波避難は「徒歩」の原則を理解し
ましょう。津波が短時間で到達
する場合は、頑丈な3階建て以
上のビルへの垂直避難も選択肢
の1つです。病気や障がいなど
で体が不自由な人は車避難も有
効なため、健常者が複数の逃げ

方から車避難を選択しなければ
渋滞が緩和され、災害弱者を救
うことに繋がります。緊急時で
あっても、全ての市民が確実に避
難できる「思いやりをもった避難」
を心がけたいですね。

適切な避難には、気象庁が発
表する気象情報の理解が必要で
す。注意報は、海岸付近は危険、
海の中にいる人は直ちに陸に上
がって海岸から離れる必要があ
り、津波警報と大津波警報では
沿岸部や河川沿いは直ちに高台
や避難ビルへの避難が必要です。

	予想される津波の高さ	
	数値での発表 (発表基準)	巨大地震の 場合の表現
大津波警報	10m 超 (10m<高さ)	巨大
	10m (5m<高さ≤10m)	
	5m (3m<高さ≤5m)	
警報	3m (1m<高さ≤3m)	高い
注意報	1m (20cm<高さ≤1m)	
		(表記しない)

元糸満市消防長で、自治体職
員では全国12人目の地域防災マ
ネージャー(内閣府認定)として活
動される賀数淳さん。現在、「人
が死なない防災」をメインテーマに
学校や企業で防災教育や講演を
行っています。東日本大震災をは
じめとする各被災地を訪れ、行
政職員や教員、保育士など多く
の震災体験者の聞き取り調査を
行い、その反省や真実を「命を守
る教訓」として伝えていきます。

4月3日に発表された津波警
報時の状況を振り返りながら、
私たちが日頃から備えておくこ
と、緊急事態発生時に取るべき行
動などをお聞きました。

かかず あつし
賀数 淳 氏

沖縄大学地域研究 特別研究員
内閣府認定 地域防災マネージャー
日本災害情報学会 会員
元糸満市消防本部消防長